

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県経済の構造的課題と健康関連産業を事例とした産学連携のあり方				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄
	研究分担者	所属・職名	静岡社会健康医学大学院大学 ・理事	氏名	芦川 敏洋
		所属・職名	経営情報学部・助教	氏名	野口 理子
		所属・職名	名誉教授	氏名	西野 勝明
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄

講演題目	健康関連産業の集積がもたらす地域経済へのインパクトの分析
------	------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>静岡県経済の経済分析の成果として、2014-2017年における静岡県の平均実質成長率は0.51%・34位と、リーマン不況以前(1999-2003年, 1.91%・4位)に比べて停滞から抜け出せていない。静岡県の経済成長が伸び悩むマクロ経済的要因として、民間企業資本ストックの伸率(2014-2017年、△1.23%・46位)と全要素生産性成長率(0.27%・38位)の寄与が特段低迷していることが判明した(芦川他(2023))。一方、静岡県内の医薬品・医療機器産業は生産額が1兆2050億円(2020年、全国シェア10.3%)と11年連続して全国1位にあり、比較的堅調に推移している。過去20年来静岡県が推進するファルマバレープロジェクトの成果の一面と推測されるが、同産業が牽引役となり静岡県経済が今後伸長するための課題として、参入障壁の高さによってサプライチェーンが地域内で形成されづらいことが、ファルマバレーセンターおよび静岡県東部地域の医療機器関連企業へのヒアリングから明らかになった(岸他(2023))。</p> <p>それを受けて本研究は、ヒアリング調査から推測した静岡県の健康関連産業の特徴をアンケート調査より明らかにし、今後の産業集積の促進及び地域経済への波及効果を大きくするための政策の方向性について考察を行うことを目的とする。</p> <p>静岡県東部を中心とした企業106社にアンケートを配布、うち39社から回答を得た(回収率約37%)。アンケート結果より、医療機器関連分野への参入障壁の高さから、産業集積内において中間財の規模の経済性が働かず、サプライチェーンが地域内に広がっていない実態が明らかになった。また、産業集積内でイノベーションを生む能力については、シーズを生む能力が乏しいことが分かった。これは、研究開発機関が産業集積内に乏しいことや、専門人材の供給を外部からの新卒採用で賄っていることが大きな要因と考えられる。</p> <p>一方で、シーズの市場化能力、投融资能力、インフラ整備能力、コーディネーション能力に関しては強みを発揮していることが分かった。これは、コーディネーション機関(ファルマバレーセンター)を通じた行政の産業育成政策の効果と考えることができる。</p> <p>産学連携に関しては、産業集積内で専門人材を育成、供給できるような枠組みが不足していることが分かった。そのため、コーディネーション機関を通じてより一層の既存の研究教育機関と企業との連携を進めるとともに、専門人材を育成する研究教育機関の設立が重要であると考えられる。</p>
-----------------	--